社会教育課程　ユースの活動紹介「かながわユースフォーラム」

人間科学部 社会教育課程 4年　髙久 李美・山﨑 裕菜

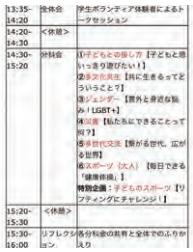
神奈川大学には地域づくりを実践的に学ぶ社会教育課程が存在します。その学びの集大成が今回特集する「かながわユースフォーラム」です。「若者がボランティアを通して地域の中に入る」そんなきっかけをつくりました。私たちが駆け抜けた三年間。そのダイジェストをお届けします。

「若者による若者のためのまちづくり」

かながわユースフォーラムは、２０２０年に４つの思いとともに第１回を開催しました。

①ボランティアの面白さや学びを知ってほしい！
②新しい自分や地域の課題について考えてほしい！
③参加者同士や地域で活動する人同士と交流してほしい！
④地域で活動する団体や地域そのものにかかわってほしい！

ボランティア活動に興味はあるけど、なかなか一歩を踏み出せない…そんな若者に向けてどうすればボランティアのハードルを下げることができるのか。どうすれば若者と地域の交流が盛んになるのか。第１回のかながわユースフォーラムでは、「若者が一歩踏み出す広がるみらい」をテーマにオンラインフォーラムを開催しました。当日は延べ１４０人の方が参加し、第１回かながわユースフォーラムは大成功に終わりました。



13:35-14:20	総休会	学生ボランティア体験者によるトークセッション
14:20-14:30	<休憩>	
14:30-15:20	分科会	①子どもとの接し方【子どもと思いっ存り遊びたい！】 ②多文化共生【共に生きるってどういうこと？】 ③ジェンダー【家外と身近な悩み！LGBT+】 ④災害【私たちにできることって何？】 ⑤多世代交流【繋がる世代、広がる世界】 ⑥スポーツ（大人）【毎日できる「健康体操」】 特別企画：子どものスポーツ【リフティングにチャレンジ！】
15:20-15:30	<休憩>	
15:30-16:00	リフレクション	各分科会の発表と全体でのふりかえり

「ユースと歩む地域のみらい」

第２回かながわユースフォーラムは、緊急事態宣言下に始まりました。第２期生の実行委員メンバーが初めて顔を合わせたのは、メンバーが決まってから約五か月後のこと。家から一歩も出ず人と会うことができない状況に、私たちは怒りを覚えるとともに課題意識を強く持ちました。コロナ禍による若者と地域の課題。それは、「希望がない」ということです。そして、２年目のテーマ「ユースと歩む地域のみらい」が決まりました。

私たちは当初、「人とのつながりが無い」ということと「コロナ過の運動不足」を課題に取り上げ、ウォークラリーの開催を予定していました。しかし、コロナによる影響で断念することに…。悔しさを残したまま、オンラインフォーラムの開催に切り替えました。

オンラインフォーラムでは、商店街・高齢者・子

ども・祭り・ジェンダーの5つの分科会に分かれ、「コロナ禍の今若者にできること」をテーマにそれぞれディスカッションが行われました。大学周辺の多様なステークホルダーと連携し進めたオンラインフォーラムは、延べ160人の参加者を招きました。参加者と直接触れ合うことは叶いませんでしたが、「地域と若者の希望を見出す」という私たちの目的は果たされました。このかながわユースフォーラムという活動は、実行委員にとっても貴重で大切な学びとなり、次の実行委員メンバーに誇りをもってバトンタッチすることができました。「次は人と人が直接触れ合える機会を」そんな思いを後輩に託し、第2回かながわユースフォーラムは幕を閉じました。

「地域の輪を拡げる」

第3回かながわユースフォーラムは、「人と人が直接触れ合える機会」をつくるため、かながわユースフォーラム初の対面イベント型で行われました。そして、商店街・町内会・子ども・スポーツの4つの班に分かれ、それぞれイベントの企画・運営に挑戦しました。今まで、第1回・第2回のかながわユースフォーラムでつくってきた「つながりのその先を見てみたい」という3期生のメンバーの思いから、テーマは「地域の輪を拡げる」に決定。「学生同士の小さな輪から、輪と輪を少しずつつなげていき、地域へと拡がる大きな輪へ。」実行委員はそんな目標を掲げました。

話し合いは難航しました。「やりたいことはたくさんあるのに、話がまとまらない」「新しく地域を開拓するにはどうすれば良いのか…」話し合いがグルグルと同じところを回っている…。そんな感覚でした。そこで、私たちはとりあえず外にでて動いてみることに。zoomで話し合うだけではなく、「まずは自分たちが外に出て地域と触れ合おう」そんな気持ちで私たちはオンラインを飛び出し、神奈川を飛び出し、茨城県へと向かいました。

「神大生×ポニー牧場×商店街」

―地域とのつながり―

私たちは、茨城県取手市にある「小貝川ポニー牧場」を訪れました。「六角橋商店街にポニーを呼ぼう」という企画構想を現実化するための視察です。この施設のコンセプトは、「小貝川の自然の中で大人も子どもも高齢者も障害者も、時間と場所を共有し、遊び、学び、遊ぶ」です。私たちがこの牧場で学んだことは、実際に触れ合うことの大切さ。ぎこちなかった実行委員たちがほんの少しほどけたように感じました。人と人、人と動物の触れ合いをかながわユースフォーラムで、そして六角橋商店街でどうカタチにするか。私たちは、ポニー牧場での体験から少しずつ前進し始めました。

「7月9日に向けて」

これまでは、特定の1日に集中開催するイベント（フォーラム）を設定し、そこに向けて授業の当初から準備を進めていくというものでした。今回は、そのイベントに先立って学生でチームを作り、地域の団体と連携するプロジェクトを実行してみるというやり方にチャレンジしました。

地域づくりやボランティア活動にそれほど馴染み

のない学生たちが、自分の興味関心のあるテーマに分かれます。そして、連携する団体を選定して自らアプローチし、うまく団体側への提案と連携体制が整ったら一緒に企画を立てて実行していくという流れになっています。

「参画者・実行委員の声」

実行委員 国際文化交流学科 3年 高久 真衣

【何を目指して、どんな自分を志して、フォーラムに参加しようと決意したか。】

特に強い目的意識はなかったのですが、みんなで何か1つのものを作り上げる経験をしたい、色んな人と協力できるような人になりたいという気持ちから参加を決意しました。

【参加した活動は何で、どんな役割を担ったか。どんな成長の自覚があるか。】

横浜市が主催する子ども達のキャリア教育を推進する「こどもアドベンチャーカレッジ」の運営に携わりました。具体的な活動としては、企業と子どもをつなぐ大学生の学生ボランティアを募り、彼らと企業の関係づくりが円滑に進むようにきっかけ作りを行いました。また、7月9日の報告会では全体に向けて分科会の流れ説明と自分が担当する分科会「こども×企業」で発表を行いました。これらの活動を通して、色んな人と協力すること、どうやって協力するのか、自分と感覚や性格の異なる人との関わり方を学べたと感じています。

【どんなことが面白く、どんなことが大変だったか。その大変さをどう乗り越えたか。】

メンバーそれぞれが持つスキル、今までの経験などが異なっていたため、1つの仕事に対しても、出来る人とやったこと無い人がどうやって協力していけば良いのか、どのように本番までの準備

を進めていけば良いのかなかなかつかめず大変でした。しかし、得意不得意で分担を分けたり、分からない部分を教えあったりして協力をしてなんとか本番を迎えることが出来たと思います。また、7月9日の報告会に向けての準備では、普段なかなか交流の機会が無い所属キャンパスが異なる人達とも協力が必要でしたが、キャンパス間の隔たりは決して小さい物ではなく、伝達事項が上手く伝わっていなかったり、当日になって判明したことがあったりと、物理的な距離が離れている人同士が協力することの難しさも感じました。しかし、LINE、電話、zoomなど自分達の持つツールを活かしながら細いつながりを維持し、当日には、直接会場で顔を合わせて最終確認や情報共有を行うことで成功を収めることが出来たと思います。

【この活動や経験は、未来のどんなことにつながっているか。】

私はユースフォーラムでの活動、経験を通して、本当の意味で人の多様性を経験し、多様性を認めるとはどういうことなのかそれを知るきっかけをつかめたのではないかと感じています。色んな人がいることは普段生活している中で感じていることではありますが、実際に一つのプロジェクトに向けて活動することで、それぞれのパーソナリティが見え、時には受け難い性質を持っていることが分かっても同じメンバーとして活動しなければならない場面も少なくはありませんでした。この経験を通して色んな人と関わっていくことがどういうことなのか少し知ることが出来たと思います。そして、この経験は自分の研究テーマでもある「多文化共生」を考える時にも一つのとっかかりになるのではないかと感じています。この感覚を大切にこれから始まる多文化共生の個人研究にも活かしていけたらなと思います。

「今後に向けて」

かながわユースフォーラムは、第3回目にしてついに対面開催を実現しました。「地域に輪を広げる」というテーマのもと、学生の小さな輪から地域を巻き込む大きな輪へと発展しました。今後は、その大きな輪をつなぎ続けること、その輪をさらに大きくしていくことを目指します。実はつながりをつくることよりも維持していくことの方が大切。私たちは若者と地域がつながる「きっかけ」をつくったにすぎません。しかし、そのきっかけが地域のみらいを変えると私たちは信じています。つながりの輪を維持するために、「きっかけ」をつくり続けていきます。

「活動紹介　～ゆっぴーの虫取り講座～」

実行委員 自治行政学科 4年 高橋 侑佑

8月24日、虫好きである私は子ども達と虫取りをするという最高な時間を過ごしました。夏休み期間を利用し、神奈川区にある片倉うさぎ山プレイパークで昆虫採集を実施しました。当日は天気にも恵まれ、子ども達は沢山の虫を捕まえていました。夏休みも後半ということもあり、宿題を少し気にしながら虫取りに専念している子をみると、昔の自分を思い出します。そして、クワガタやセミなどをみつけて喜ぶ姿をみて開催して本当に良かったなと思いました。

今回利用したプレイパークのような自然が残る環境はとても貴重で、特に都市部に必要だと感じます。もちろん、虫に触れない子どももいましたが、ボランティアに来てくれた大学の仲間と、水遊びや焚き火、刀作りなどの自然を活用した様々な遊びで楽しい時間を過ごしていました。子ども達に会った際、「久しぶり!」と声を掛けてくれた子もいてとても嬉しかったです。というのも、本企画の対象は神大寺学童さんの子ども達であり、以前に開催したかながわユースフォーラムの活動等で交流があったからです。今回は、コロナ禍で遊びが制限されている問題を解決すべくスポーツ大会を開きました。今後も子どもたちと交流できる貴重な機会を大切にしていきたいと思います。